ゲスト講師による課題提起

この時間について

ゲストの方が、皆様に対して地域の課題を相談されます。
その課題の解決のために、ここまで学んだことを活かして
解決策となるアプリのプロタイプを開発していきます。

課題解決の基本プロセスを思い出しながら、主体性を持ち
ゲストの方の抱えている問題・課題を理解するように努めましょう。

課題解決の実践1~4

課題理解と解決策立案

課題解決の実践

課題解決の基本プロセスにそって、グループで協力して解決策の選択までを目指しましょう！
※1年次より時間をかけて、しっかりと問題の理解をしていきましょう。

問題の発見	現状どのような問題があるか洗い出す
問題の選択	どの問題から取り組むかを選ぶ
問題の理解	現状や理想を整理し、その問題について理解する
課題設定	範囲や抽象度なども明確にし、課題を定義する
解決策の立案	解決策の可能性を探る（拡散思考）
解決策の選択	どの解決策を採用するかを選ぶ（収束思考）
実行と評価	実際に解決策を試し、有用性を確認する

課題解決の実践5~10

提案内容の準備

課題解決の実践

実行として、自分たちができる範囲で解決策（主にアプリ）のプロトタイプを作りましょう。

問題の発見	現状どのような問題があるか洗い出す
問題の選択	どの問題から取り組むかを選ぶ
問題の理解	現状や理想を整理し、その問題について理解する
課題設定	範囲や抽象度なども明確にし、課題を定義する
解決策の立案	解決策の可能性を探る（拡散思考）
解決策の選択	どの解決策を採用するかを選ぶ（収束思考）
実行と評価	実際に解決策を試し、有用性を確認する

課題解決の実践

実行として、自分たちができる範囲で解決策（主にアプリ）のプロトタイプを作りましょう。
まずは、この6コマでどのようなプロトタイプを作るかを決めることを目指しましょう。

例

ある観光地が抱えている運営上の課題を解決するための仕組みを企画する

①その企画を実行する際に必要なアプリのプロトタイプ※を制作する

②アプリを売り込むためのプレゼン資料を作成する

※解決策をただの空想ではなく、リアルなものにするものであれば
　何でもよいです。

課題解決の実践11~24

提案内容の準備

課題解決の実践

実行として、自分たちができる範囲で解決策（主にアプリ）のプロトタイプを作りましょう。

問題の発見	現状どのような問題があるか洗い出す
問題の選択	どの問題から取り組むかを選ぶ
問題の理解	現状や理想を整理し、その問題について理解する
課題設定	範囲や抽象度なども明確にし、課題を定義する
解決策の立案	解決策の可能性を探る（拡散思考）
解決策の選択	どの解決策を採用するかを選ぶ（収束思考）
実行と評価	実際に解決策を試し、有用性を確認する

課題解決の実践

実行として、自分たちができる範囲で解決策（主にアプリ）のプロトタイプを作りましょう。

まず、この14コマで
「自分たちの解決策がどのようなものか」を
他の人が想像できる最低限のプロトタイプの完成
を目指しましょう！

課題解決の実践25~32

提案内容の準備

課題解決の実践

実行として、自分たちができる範囲で解決策（主にアプリ）のプロトタイプを作りましょう。

問題の発見	現状どのような問題があるか洗い出す
問題の選択	どの問題から取り組むかを選ぶ
問題の理解	現状や理想を整理し、その問題について理解する
課題設定	範囲や抽象度なども明確にし、課題を定義する
解決策の立案	解決策の可能性を探る（拡散思考）
解決策の選択	どの解決策を採用するかを選ぶ（収束思考）
実行と評価	実際に解決策を試し、有用性を確認する

課題解決の実践

実行として、自分たちができる範囲で解決策（主にアプリ）のプロトタイプを作りましょう。

まず、この8コマで
自分たちのプロトタイプを他グループに使ってもらい
どのような改善点があるか意見をもらいましょう。

意見を求められたグループは、良い点ばかりでなく
①改善点（もっとこうだったら良いのにと思うこと）
②疑問点（どうしてこの機能・デザインなのか不明なこと）
を意識して伝えてください。

課題解決の実践33~46

提案内容の準備

課題解決の実践

実行として、自分たちができる範囲で解決策（主にアプリ）のプロトタイプを作りましょう。

問題の発見	現状どのような問題があるか洗い出す
問題の選択	どの問題から取り組むかを選ぶ
問題の理解	現状や理想を整理し、その問題について理解する
課題設定	範囲や抽象度なども明確にし、課題を定義する
解決策の立案	解決策の可能性を探る（拡散思考）
解決策の選択	どの解決策を採用するかを選ぶ（収束思考）
実行と評価	実際に解決策を試し、有用性を確認する

課題解決の実践

実行として、自分たちができる範囲で解決策（主にアプリ）のプロトタイプを作りましょう。

この14コマで
「自分たちの解決策がどのようなものか」を
他の人が想像できるプロトタイプを
他のグループからのフィードバックも踏まえて完成させましょう。

課題解決の実践47~50

提案内容の準備

課題解決の実践

実行と評価の代わりに解決策を発表しましょう。

問題の発見	現状どのような問題があるか洗い出す
問題の選択	どの問題から取り組むかを選ぶ
問題の理解	現状や理想を整理し、その問題について理解する
課題設定	範囲や抽象度なども明確にし、課題を定義する
解決策の立案	解決策の可能性を探る（拡散思考）
解決策の選択	どの解決策を採用するかを選ぶ（収束思考）
実行と評価	実際に解決策を試し、有用性を確認する

課題解決の実践

解決策の実行の代わりに、内容が伝わるようにプレゼン資料を作りましょう。

最低限入れるべきもの

- 解決策の概要（何をするのか）
- その理由（なぜ、それを選んだのか）
- 詳細な方法（どのように実行するのか）
- ターゲット・受益者（それによって誰が助かるのか）
- アプリのプロトタイプの紹介